

# 徳島県立図書館サービス向上目標(第4期)

## ～新たな環境下の県立図書館サービス～

令和3年3月

徳島県立図書館では、サービス向上のための改善策や新たなサービスの展開を設定し、その実現に向けて努力していく指針として、平成18年度に「徳島県立図書館サービス向上目標～地域の情報拠点を目指して～」を策定し、以後5年ごとに改正を行い、サービス向上に取り組んできました。また、平成28年度からの第3期中には、開館百周年(平成29年)事業として「とくしま電子図書館」を構築するとともに、子どもの本の充実等を行いました。一方、令和2年に広がった新型コロナウイルスは、感染防止のため人との接触を減らすことを余儀なくさせ、一時期図書館が全国的に休館または部分開館せざるを得なくなりました。こうして第4期目標策定では、改めて図書館の役割を再考することになりましたが、新たな環境下においても、引き続きしっかりと県民の様々な「知りたい」に応え続けていくことを目指し、電子書籍やリモートといった非来館型のサービスも駆使しながら、努力と工夫を重ねていくことといたします。

### 県立図書館の役割・運営方針

徳島県の図書館ネットワークの中核として、全ての地域の県民のニーズや課題に生涯を通して応えていくとともに、県全体としての図書館サービスの向上を図ります。

### 目指す図書館の姿

#### 人と資料とをつなぐ図書館

- すべての地域の県民への資料提供
- 「とくしまネットワーク図書館」の充実
- 県内市町村立図書館等への支援
- 他機関・団体との連携協力

#### 探究する人をサポートする図書館

- レファレンス機能の強化
- 使いやすいレファレンス・ツールの提供
- 他機関と連携したレファレンス
- 仕事や暮らしの課題解決を支援

#### 徳島を知って、未来を創る人の図書館

- 郷土資料の収集・保存・活用・発信
- 郷土関係レファレンス・ツールの強化
- 徳島に関する調査研究推進
- 地域の課題解決を支援

#### 読書を愉しみ心を育む人の図書館

- 多様な資料収集と紹介
- 子どもの本を網羅的に収集
- 子どもの読書環境整備と学校図書館との連携協力
- 読書バリアフリーへの取り組み

## Ⅰ 人と資料とをつなぐ図書館

当館では昭和 63 年から市町村の図書館や教育委員会を巡回する協力車を運行し、県内公立図書館等への協力貸出や図書館間の相互貸借を行い、すべての県民が居住地にかかわらず同じような図書館サービスが利用できるよう図っています。さらに平成 30 年度から「電子書籍閲覧サービス」といった非来館型サービスを開始しており、今後も他の図書館等との協力やICTサービスの充実によりすべての地域の県民に図書館資料を提供していきます。

### (1) すべての地域の県民への資料提供

すべての地域の県民への資料提供を行うため、昭和 25 年から移動図書館車「やまなみ号」を県下に巡回させ、市町村での図書館設置が進んできた昭和 63 年には、各図書館からの予約資料を運ぶ協力車に交代しました。これからも、全県民が利用できるサービスとして、市町村立図書館と図書館未設置の教育委員会への協力貸出を充実させるとともに、「電子書籍閲覧サービス」の普及と充実を図ります。

### (2) 「とくしまネットワーク図書館」の充実

「とくしまネットワーク図書館」システムでは、利用者は県立図書館の本をインターネットで予約し、市町村立図書館を通して借りるとともに、各図書館は他館からの借り受けができます。今後も、「とくしまネットワーク図書館」システムを充実させることにより、すべての地域の県民が、より多くの図書館資料に出会い、利用できるよう図ります。

### (3) 県内市町村立図書館等への支援

県内公共図書館の発展を図るため、市町村立図書館等との連携を深め、協力車等による図書館資料の搬送を維持します。また、図書館職員の資質・能力の向上を図るため、徳島県公共図書館協議会等において効果的な研修を実施します。さらに、非常時の図書館サービスの継続に向けた情報共有や検討を行います。

### (4) 他機関・団体との連携協力

読書活動の振興を図るため、大学図書館および徳島県読書振興協議会等の読書ボランティア団体との連携・協力により、図書館の利用を促進します。

#### 数値目標

5冊以上／人・年	県内公共図書館の県民一人当たり貸出冊出
2万冊以上／年	市町村立図書館・未設置教育委員会・県立学校図書館への協力貸出冊数
6,000件以上／年	電子書籍閲覧件数

## 2 探究する人をサポートする図書館

当館のレファレンスでは、司書による調査・相談はもとより、各種データベースを備え、Webでは「調べものナビ」を公開し、事典や図鑑類は電子書籍でも提供しており、今後も、県民がこれらを十分活用して、深い探究を行えるよう、レファレンスの技能とツールの充実に努め、サポートしていきます。

### (1) レファレンス機能の強化

社会の複雑多様化に対応した的確なレファレンスサービスを行うため、各図書館職員の研修に努め、様々な分野で最新の動向を把握し、得た知識を共有して専門性やレファレンス技能を向上させるとともに、新しい分野も含め、多種多様な資料を充実させていきます。

### (2) 使いやすいレファレンス・ツールの提供

調べたい事項の解決に、利用者自身で、より多くの参考になる本や文献に出会うことができるよう、当館での調査・相談事例のデータベース化とWeb公開を推進するとともに、関心の高いテーマのパスファインダー（調べ方案内）やテーマ一覧を充実させます。また、これらに当館「資料詳細」ページへのリンクといった機能を付加し、Webでできる調べものを拡充します。

### (3) 他機関と連携したレファレンス

レファレンス・サービスの質を高めるため、国立国会図書館の協 lựcレファレンスをはじめ、県内外の図書館や専門機関と一層連携して、各館が備える機能を相互に活用します。

また、他機関と協力展示を行うことで新たな利用につなげたり、とりわけ文化の森に集まる博物館等の各施設とは、調査研究やコレクション、レファレンス事例といった情報を共有しながら、より専門的な内容に対応できるよう努めます。

### (4) 仕事や暮らしの課題解決を支援

ライフステージの各場面に対応して設定した「しごと」、「子育て」、「セカンドライフ」、「医療・健康」のコーナーで、暮らしに役立つ様々な資料や情報を時宜に応じて選択・提供することで、問題解決を支援します。起業や経営を対象としている「ビジネス分野」については、各種年鑑・統計書やオンラインデータベースの活用を促進していきます。

#### 数値目標

50件以上／年

レファレンス事例 Web 公開件数

200人以上／年

主催講演・講座参加者数

### 3 徳島を知って、未来を創る人の図書館

都道府県立図書館には、その地域の郷土資料センター的役割があり、当館では歴史的資料から現在の地域社会を映す資料まで満遍なく収集・保存しています。今後も、県民がこれらを十分活用して徳島への理解を深め、歴史・文化の継承や、これからのよりよい地域社会づくりに取り組めるよう、資料を充実し、効果的に紹介して支援していきます。

#### (1) 郷土資料の収集・保存・活用・発信

徳島県や県出身者に関する資料をはじめ、行政資料、広報誌、地域情報誌等を網羅的に収集・保存します。また、Webのみで公開された資料の紙媒体での収集や電磁的記録も推進します。さらに、歴史的に貴重な資料はデジタル化してアーカイブで広く発信するなど、郷土資料を適切に保存・活用することで徳島の姿を明らかにし、県民の郷土への理解を高めます。

#### (2) 郷土関係レファレンス・ツールの強化

郷土についての調査研究は利用者の関心が高く、問い合わせが多い分野であるため、豊富なレファレンス事例が蓄積されています。これらの成果は、各司書が共有して調査相談業務の向上を図り、また、郷土関係の事項・人物情報とともにデータベース化し、Web 公開を推進することにより、利用者自身で行う調査研究を容易にしています。

#### (3) 徳島に関する調査研究推進

地域に関する調査研究に対して、調査・相談や資料の提供を通じて活動を支援し、研究成果は当館で県民の利用に供するなど、学術文化の振興に努めます。

特に、60年以上の歴史がある「阿波学会」とは、2年ごとに1市町村ずつ実施する総合学術調査を共催し、その成果は地元市町村に還元するとともに、調査報告書を郷土資料として活用します。

#### (4) 地域の課題解決を支援

地域の課題解決に取り組む人や団体、行政機関に対して、積極的に資料の提供や調査・相談サービスを行い、その活動や業務を支援します。また、こうした活動等に協調して、資料展示や県政情報の提供を充実させるなど、より多くの県民が関心を高め、課題解決に関わっていきやすくなるよう啓発に努めます。

#### 数値目標

3,000冊以上／年	郷土資料収集冊数
40件以上／年	行政支援サービス件数

## 4 読書を愉しみ心を育む人の図書館

当館は、蔵書が常に幅広く新鮮な構成となるよう、また、子どものときから読書に親しめることなどに留意して選書に努めてきました。これからも県民ひとりひとりの様々なニーズに応えられるよう多様なテーマの資料を収集するとともに、生涯を通じた「知る」「学ぶ」場として環境を整えることにより、県民の豊かな読書活動を応援します。

### (1) 多様な資料収集と紹介

県民が読書そのものを愉しむとともに、それぞれが抱く興味関心に生涯を通じて応えていけるよう、豊富で多岐にわたる内容の資料を、図書・雑誌、視聴覚資料、電子書籍といった様々な形態で収集・提供します。

また、社会的なものや個人的なものを問わず、ありとあらゆる新たな読書テーマの発見につながる提案を行うために、多様なブックリストを作成してWebや資料展示で紹介したり、講演会といったイベントを行い、読書の喜びを高めます。

### (2) 子どもの本を網羅的に収集

当館は、昭和40年代から子どもの読書推進のため、絵本・童話をはじめ事典やヤングアダルト向けの本、さらには児童書や児童文学者の研究書まで、すべての子どもの本を網羅的に収集した結果、子どもが楽しめるだけでなく、保護者や図書館・教育関係者等にも役立つ20万点に上る「子どもの本の資料センター」に成長しています。今後も引き続きこの役割を果たしていけるよう、年間児童書出版点数の8割以上の収集を目指していきます。

### (3) 子どもの読書環境整備と学校図書館との連携協力

子どもたちが読書に親しむ環境をつくるために、おはなし会などの活動を行います。

また、読みたい本との出会いを増やすパスファインダーやブックリストを作成して、Webや資料展示で紹介します。

さらに、電子書籍を含む調べ学習用図書の充実や協力貸出、協カレファレンスにより学校図書館との連携を深め、自主的な読書活動を支援します。

### (4) 読書バリアフリーへの取り組み

障がいの有無にかかわらず県民が読書活動を行えるよう、当館は大活字本や録音図書といった多様な資料の収集や、来館が困難な障がい者への郵送貸出サービスなどを行っています。令和元年に「読書バリアフリー法」も施行され、視覚障がい者等が利用しやすい図書等の一層の充実に努めるとともに、こうした資料やサービス、読書支援機器が十分活用されるよう、誰もがわかりやすい館内表示や、市町村立図書館を通じた広報を行います。

また、日本語が母語でない人の読書活動を支援するため、様々な言語による資料の収集に努めます。

数値目標

70回以上／年	資料紹介展示回数
3,200冊以上／年	児童書の年間購入冊数
350点以上／年	読書バリアフリー資料収集点数
40万人以上／年	入館者数